

教育出版『書道 I』（書 I 704）準拠シラバス

教科・科目	書道 I	学科・学年・クラス	科 年次 組
単位数	2 単位	教科書・副教材	書道 I（書 I 704）教育出版

1 講座のねらい（目標）

書道の幅広い活動をとおして、書に関する見方・考え方をはたらかせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。（「知識及び技能」の習得）
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりすることができるようにする。（「思考力、判断力、表現力等」の育成）
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をとおして心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。（「学びに向かう力、人間性等」の涵養）

(1) の「知識」は単に記憶するものではなく、書の表現や鑑賞の活動をとおして実感的に理解し、汎用的なものとしていくことが大切である。また、「技能」は表現活動において、意図に基づいて構想し表現を工夫するための基礎的な技能を身につけることをねらいとしている。(2) の「思考力、判断力、表現力等」は、書のよさや美しさを直感的に受け止め、表現や鑑賞の活動の契機とすることが大切である。表現活動においては、知識や技能を得たり生かしたりしながら、自らの意図に基づいて構想して表現を工夫し、鑑賞活動においては、知識を得たり生かしたりしながら、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりすることができるようにすることをねらいとしている。(3) の「学びに向かう力、人間性等」は、主体的に書の表現や鑑賞の学習に取り組む態度、生涯にわたり書を愛好する心情などを示しており、(1) および (2) の資質・能力を身につけていくなかで、一体的に育成していく。

2 授業の内容と学習法

芸術科「書道 I」の内容は「表現」と「鑑賞」に大別され、両者は相互に密接な関連を図って展開し、広く書に関わる資質・能力を育成することとしている。また、書は言葉を書き記す芸術であるから、時間性や運動性をもち、書を構成する要素のはたらかによる独自の表現性を有している。また、書は視覚芸術であり、造形性や空間性を併せもっている。これらの書の特質や書の美をとらえて表現したり鑑賞したりするうえでの観点を十分に意識しながら学習を進めていく必要がある。

- (1) 「表現」は「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」の三つの分野から構成されている。「漢字仮名交じりの書」は、漢字仮名交じり文という日常的な表記を用いることから、芸術的な表現とともに実的な表現も含まれており、中学校国語科書写との関連をふまえることが重要である。「漢字仮名交じりの書」では、言葉の選定、意図に基づく構想、名筆や現代の書の表現をふまえ、漢字と仮名の調和を図るとともに、表現の工夫を重ねながら作品を練り上げていく。また、「漢字の書」「仮名の書」においては、古典の名跡をもとに習う臨書活動を中心に展開していく。古典の書風を直感的にとらえつつ、用具・用材と表現効果の関わり、書体・書風と用筆・運筆との関わりを理解し、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけていくようにする。「表現」においては、意図に基づく作品の構想と表現の工夫、完成作品に至るまでの学習過程を振り返り、自己課題を確認しながら次の学習活動へと展開していくことが重要となる。
- (2) 「鑑賞」は表現されたものの特性、表現効果、価値などを美に対する感受性や知的理解の面から味わうことである。「書道 I」においては、書の表現の方法や形式、多様性などについて理解したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりしていく。生徒一人ひとりの第一印象による直感的把握を大切にし、各人が感じ取った作品や古典の印象を言葉で表現し、他者に伝えあったりする言語活動の充実を図るとともに、その書の美をもたらし根拠や価値を考えていく。また、生活や社会における書が果たしている役割についても考えていく。鑑賞にあたっては、教科書のほか、真跡・拓本・複製や印刷図版、また ICT を効果的に活用して作品を提示することや、地域の文化財や美術館などを利用することで、主体的に鑑賞する姿勢を身につけるようにしていく。

3 履修上の注意点

書の表現や鑑賞の学習を進めていく上で、自らの感性をはたらかせることを大切にしたい。また、書のよさや美しさを味わいとらえ、生活や社会における文字や書、書の伝統と文化と豊かに関わっていくようにしていきたい。

「表現」における古典の臨書活動では、それぞれの古典がもつ特徴をとらえ、効果的に表現する技能を身につけていく。臨書活動にあたっては、古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解し、一枚書くごとに自己課題を見きわめながら技能を身につけていく習慣を身につけたい。

作品の制作活動においては、詩文などの言葉の選定や「今、自分は何を表現したいか」という意図を大切にしたい。自身の表現の意図に基づいて構想し、用具・用材などを積極的に選択し、表現の工夫を重ねていくことで作品を練り上げていくことが大切である。書の表現や鑑賞の幅広い活動をとおして、自らの学習の成果を実感するとともに、書を学ぶことの意義や価値を自覚し、書ならではの見方・考え方を身につけ、これからの学習や生活の中で生かすようにしたい。

4 学習計画および評価方法等

[1] 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 (学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など)	考查範囲
一 学 期	<p>書之美を求めて 書の世界へようこそ 用具・用材一文房四宝— 姿勢・執筆 古典の学び方 書を生活の中に生かしてみよう</p>	4	<p>書道の学習を始めるにあたり、書の特徴や学習の全体像を把握します。 用具・用材について理解し、姿勢や執筆法・用筆法について知り、書道の学習における基本的な事項を理解します。 小・中学校の国語科書写の学習内容を確認し、身のまわりの生活の中で見られる書について、その意義や効果について学習します。</p>	<p>中学校までの書写の学習で身につけている内容を確認します。</p>	一 学 期 末 考 査
	<p>一 漢字の書の学習 書体の変遷 拓本と碑について 拓本を採ってみよう</p>	5	<p>漢字の書の学習を進めるにあたり、書体の変遷や拓本についての理解を図ります。</p>	<p>芸術科書道と国語科書写の関連を確認します。 世界史の学習に関連します。</p>	
	<p>一 楷書の学習 1 さまざまな楷書 2 唐の四大家 ■九成宮醴泉銘／孔子廟堂碑 ■雁塔聖教序／顔氏家廟碑 3 北魏の書 ■牛橛造像記／鄭羲下碑</p>	6	<p>さまざまな楷書古典を鑑賞し、そのよさや美しさ、書風を直感的にとらえ、作品の価値や根拠について考えます。 漢字の楷書の古典に基づく学習により、書の多様な表現の可能性にふれます。 代表的な楷書古典を鑑賞し、それぞれの古典について、作者や時代背景などの知的理解を図ります。 各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関わりからとらえ、臨書活動をとおして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。</p>	<p>各自の個性を生かすことのできる古典を選択して集中的に学習します。</p>	
	<p>二 行書の学習 1 さまざまな行書 ■行書の特徴 2 王羲之と顔真卿の行書 ■蘭亭序 唐の太宗と蘭亭序 ■祭姪稿 鑑賞ガイド 蘭亭序 鑑賞ガイド 祭姪稿 顔真卿の人と書 3 日本の行書 ■風信帖 ■三筆、三跡の書 身のまわりで見られるさまざまな書</p>	7	<p>さまざまな行書古典を鑑賞し、書風を直感的にとらえたうえで、行書の特徴について理解します。 代表的な行書の古典について、字形の特徴と用筆・運筆との関わりからとらえ、臨書活動をとおして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。 身のまわりで見られるさまざまな書にふれることをとおして、楷書や行書以外の書体についても目を向けられるようにします。</p>	<p>実用性と芸術性という行書の二つの側面を理解します。 世界史の学習に関連します。</p>	
<p>【課題・提出物等】</p> <p>1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。 2 提出前の途中経過（制作の初期段階の作品から、意見交換した作品、完成作品など）を記録としてファイルします。 3 単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い、学習を振り返り自己評価します。 4 課題に応じて作品やワークシート等を提出します。</p>					
<p>【一学期の評価方法】</p> <p>1 提出作品、学習過程、「学習記録」等による学習過程、「学習のまとめ」の内容、期末考査を中心に、用具・用材の扱いを含め、主体的に学習に取り組む態度も含めて総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品で40%、活動の様子、「学習記録」による学習過程と「学習のまとめ」で30%、期末考査で15%、主体的に学習に取り組む態度15%の配分で行います。 3 提出作品は、導入では用筆・運筆を工夫して表現することができたか、また漢字の書については、対象となる古典の特徴を表現できたかという点が評価の規準となります。</p>					

二 学 期	三 篆書の学習 ■泰山刻石	9	篆書、隸書、草書の学習については、生徒の特性等を考慮して学習します。また、篆刻・刻字については、生徒の興味や関心をふまえ、可能な限り扱うようにします。	世界史の学習に関連します。
	四 篆刻・刻字の学習	10	篆書の学習は篆刻と関連づけて指導することで、学習の幅を広げ深めることができます。隸書については文字の点画構造が楷書に近く、双方の書体への理解が深められます。草書は「仮名の書」の学習での理解を深めることにもつながります。これらの五つの書体を扱うことで、総合的に書についての理解を深めることにつながりますが、「書道Ⅰ」では基礎的な楷書や行書の学習を充実するようにします。	詩句や古典の選択により各自の個性を發揮します。
	1 篆刻の学習 2 刻字の学習			
	五 隸書の学習 ■曹全碑 ■居延漢簡	11	漢字の書の制作では、意図に基づく構想と表現の工夫について学習していきます。	漢字の草書体から平仮名への発展は国語・日本史の学習に関連します。
	六 草書の学習 ■書譜			
	漢字の書の制作 作品の形式や用具・用材を工夫して表現してみよう			
	書の鑑賞形式 漢字の書の鑑賞 身のまわりの書	12	書の鑑賞形式、さまざまな漢字の書の鑑賞、身のまわりの書について理解を深めます。また、生活や社会における漢字の書の広がりにもふれます。	仮名独自の美しさを感得します。
二 仮名の書の学習				
1 仮名の世界へようこそ ■仮名の成立と発達 ■仮名の種類 ■姿勢・執筆 ■用具・用材 ■基本的な筆使い ■平仮名 ■変体仮名 ■連綿				
2 蓬萊切の鑑賞と臨書 3 高野切第三種の鑑賞と臨書 4 三色紙の鑑賞と散らし書き 5 仮名の書の制作 6 全体構成の工夫 7 大字による表現と鑑賞 料紙の美 料紙を作ってみよう				
【課題・提出物等】				
1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。 2 提出前の途中経過（試書・中間まとめ・添削を受けたもの等）を記録としてファイルします。 3 単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い、自己評価します。 4 課題に応じて作品を提出します。作品制作は数時間かけて完成させます。				
【二学期の評価方法】				
1 提出作品、学習過程、「学習記録」等による学習過程、「学習のまとめ」の内容、期末考査を中心に、用具・用材の扱いを含め、主体的に学習に取り組む態度も含めて総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品で40%、活動の様子、「学習記録」による学習過程と「学習のまとめ」で30%、期末考査で15%、主体的に学習に取り組んでいる態度15%の配分で行います。 3 提出作品は、漢字の書については対象となる古典の特徴を表現できたか、制作作品については自分の意図したように表現することができたか、仮名の書については基本的な用筆が習得できたか、臨書においては対象となる古典の特徴を表現できたかが評価の規準となります。				

三 学 期	三 漢字仮名交じりの書の学習 1 言葉を表現する 2 感動や思いを表現しよう ■作品の表現意図を考える ■名筆に学ぶ表現の工夫 ■用具・用材の工夫 ■全体構成の工夫 ■作品の完成（鑑賞会を行う） 3 漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞 漢字仮名交じり文の成立とその書の変遷 書式の教室 書道史略年表 博物館や美術館に行ってみよう 日本・中国書道史参考地図 索引	1 これまでに学習した漢字および仮名の古典の学習をもとに、その表現を応用した漢字仮名交じりの書の制作を行います。 2 自らの感動や思い・感慨に応じて詩文を選定します。また、作品の表現形式を決めた上で、詩文を選定する場合があります。 意図に基づいて構想し、用具・用材、全体の構成など工夫し、漢字と仮名の調和方法を考えて表現していきます。表現の工夫にあたっては、名筆や現代の書の表現を参考として表現を深めていきます。他者との意見交換をとおして、表現を練り上げ作品を完成させていきます。 3 漢字仮名交じり文の成立とその書の変遷について理解を深めます。	1年間の学習のまとめとして自己を主体的に表現することに取り組みます。	三 学 期 期 末 考 査	
	【課題・提出物等】 1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。 2 提出前の途中経過（試書・中間まとめ・添削を受けたもの等）を記録としてファイルします。 3 単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い、自己評価します。 4 課題に応じて作品を提出します。				
	【三学期の評価方法】 1 提出作品、学習過程、「学習記録」等による学習過程、「学習のまとめ」の内容、期末考査を中心に、用具・用材の扱いを含め、主体的に学習に取り組む態度も含めて総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品で40%、活動の様子、「学習記録」による学習過程と「学習のまとめ」で30%、期末考査で15%、主体的に学習に取り組んでいる態度15%の配分で行います。 3 提出作品は、漢字仮名交じりの書の作品については自分の意図した表現をすることができたかという点が評価の規準となります。				
【年間の学習状況の評価方法】 下記の四つの観点から評価した一学期、二学期、三学期の成績を総合し、年間の学習成績とします。					

確かな資質・能力を身につけるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の学習においては、感性をはたらかせて、直感的に作品のよさや美しさをとらえることが重要です。対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。 ・古典の書風や作品を用筆・運筆、字形、全体の構成からとらえ、その書風をもたらし根拠を考えるようにしましょう。 ・表現の技能の習得は、主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく、1枚ごとに自分の解決すべき課題や問題点を見きわめ、それを解決するように学習を進めることが大切です。そのために「学習記録」は丁寧に書き、学習過程を振り返ることができるようにしておきましょう。 ・制作については「今、自分は何を表現したいか」という表現の意図を大切に、詩文の選定、用具・用材を選択し、作品を構想し表現を工夫していきましょう。
授業を受けるにあたって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はチャイムと同時に始めますので、用具を準備し着席を完了させて下さい。 ・用具は大切に扱い、特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。 ・作品やワークシート等はファイルにきちんと整理しておきましょう。

[2] 評価の観点、内容および評価方法

学習の実現状況は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で評価する。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 【知識】	【知識】 ・ 作品ファイル ・ ワークシート ・ 「学習記録」による学習過程 ・ 定期考査
	書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。 【技能】	【技能】 ・ 提出作品 ・ 作品ファイル ・ ワークシート ・ 「学習のまとめ」の内容
思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わいとらえたりしている。	・ 提出作品 ・ 活動の様子 ・ 「学習記録」による学習過程 ・ 作品ファイル ・ ワークシート ・ 「学習のまとめ」の内容 ・ 定期考査
主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。	・ 活動の様子 ・ 提出作品 ・ 作品ファイル ・ ワークシート ・ 「学習記録」による学習過程

(1) 「知識・技能」の評価について

書道の学習の過程をとおした知識及び技能の習得状況を評価する。また、すでに身につけている知識及び技能と関連づけたり、活用したりするなかで、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念を理解したり、技能を習得したりしているかも評価していく。各授業の中では、「知識」「技能」の習得状況を学習活動に応じて個々に評価していくが、学期末には「知識・技能」としてまとめて評価していくことになる。

「知識」は、表現及び鑑賞の両方の活動において評価し、書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解しているかを、ワークシートや学習の記録等から評価していく。

「技能」は、表現活動において、書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけているかを、提出作品や作品ファイル、活動の様子等から評価していく。

(2) 「思考・判断・表現」の評価について

書道における知識及び技能を活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を身につけているかを評価する。

表現活動では、書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫しているかを、ワークシートや学習記録、活動の様子、作品等から評価していく。

鑑賞活動では、書のよさや美しさを感じ、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わいとらえているかを、ワークシート、学習記録、活動の様子等から評価していく。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

書道の表現及び鑑賞の活動において、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているか、評価する。一定の学習のまとまりのなかで、表現と鑑賞ごとに評価するが、学期末には一体的に評価していく。

表現活動では自身の活動を振り返りながら試行錯誤を繰り返し粘り強く学んでいる様子や、構想を練り直したり表現の工夫を重ねたりしている過程を活動の様子や学習記録等から評価していく。

鑑賞活動では、作品のよさや美しさを感じ、分析的に作品をとらえようとし、書の伝統と文化の価値について主体的に考えたり、生活や社会における文字や書の意味や価値を考え、見方・考え方を広げたりしているかを、活動の様子や学習記録から評価していく。

[3] 担当者からのメッセージ

- ・「何ができるようになったか」を大切にしたいと思います。1時間の中での進歩、単元をとおしての進歩、学期をとおしての進歩、そして、1年間の学習をとおしての進歩が感じられるような学習への取り組みをして下さい。
- ・一人ひとりの個性を生かし、これを伸ばしていくことを学習の第一目標としています。練習する古典や題材とする語句などについて、自分を最高に生かせる選択をしていきたいものです。
- ・「書道Ⅰ」の学習をとおして、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになってほしいと思います。

教育出版『書道 I』（書 I 704）準拠 年間学習指導計画例・単元の設定例

月	学習事項	教科書ページ	配当時間	●単元の目標(例) ○学習活動(例)	備考
4	書的美を求めて 書の世界へようこそ	前見返し 口絵 折込	2	○書道の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握する。	・「書道 I」の導入期の指導として位置づけたり、「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」に設定されている各単元と関連付けて一体的に扱ったりすることが考えられる。
	■用具・用材―文房四宝― ■姿勢・執筆 ■古典の学び方 ■書を生活の中に生かしてみよう	2~3 4 5 6		○姿勢・執筆や用具・用材について理解し、書の学習方法を把握する。 ○臨書の種類を知り、その意義を確認する。 ○仮書について理解し、創作活動への展開の可能性について考える。 ○生活の中の書を再認識し、その意義や効用を考える。	
5	漢字の書の学習				
	■書体の変遷	8~9	2	○漢字の五つ書体の歴史的な変遷について理解する。	・「漢字の書」に位置付けられている各単元と関連付けて一体的に扱うことが考えられる。「書体の変遷」については、鑑賞の「知識」として適切に位置づける必要がある。
	■拓本と碑について	10~11		○拓本の採り方やその様式について理解する。	
	1 さまざまな楷書	12~15	2	●(1) 知識及び技能 ・用具・用材の特徴と表現効果の関わり、漢字の楷書の書風と用筆・運筆との関わりを理解する。(表現「知識」) ・楷書の古典の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、中国の文字と書の伝統と文化について理解する。(鑑賞「知識」) ・楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆や線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。(表現「技能」)	・「楷書の学習」の導入期の指導として、最初に扱ったり、各単元と関連付けて一体的に指導したりすることが考えられる。
	2 唐の四大家	16~29		●(2) 思考力、判断力、表現力等 ・楷書の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。(表現) ・楷書の古典や臨書した作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。(鑑賞)	
九成宮醜泉銘/孔子廟堂碑	別冊2~5	4	●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・楷書の古典の特質に基づく幅広い表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) ・楷書の古典のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞)	・「漢字の書」における「楷書の学習」をまとめて目標を示しているが、実際は「楷書の学習①九成宮醜泉銘と孔子廟堂碑の比較を通して」、「楷書の学習②雁塔聖教序と顔氏家廟碑の比較を通して」、「楷書③北魏の書の学習」(各4時間)というように、生徒の実態等に応じた単元を設定して学習計画を作成することが考えられる。「知識及び技能」の「技能」の目標については、「楷書の古典」で示している部分は、各古典の臨書活動において育成される資質・能力であり、単元の設定方法に応じて、「九成宮醜泉銘」「孔子廟堂碑」「雁塔聖教序」「顔氏家廟碑」「牛嶺造像記」「鄭義下碑」等の具体的な古典名とすることも考えられる。「知識」については、二つの古典を比較して理解するなど一体的に扱うことも可能である。	
雁塔聖教序/顔氏家廟碑	別冊6~9		●(1) 知識及び技能 ・用具・用材の特徴と表現効果の関わり、漢字の行書の古典の書風と用筆・運筆との関わりを理解する。(表現「知識」) ・行書の古典の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、中国や日本等の文字と書の伝統と文化について理解する。(鑑賞「知識」) ・行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆や線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。(表現「技能」)		
3 北魏の書	30~33	4	●(2) 思考力、判断力、表現力等 ・行書の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。(表現) ・行書の古典や臨書した作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。(鑑賞)	・「行書の学習」の導入期の指導として最初に扱ったり、各単元と関連付けて一体的に指導したりすることが考えられる。	
牛嶺造像記/鄭義下碑	別冊10		●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・行書の古典の特質に基づく幅広い表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) ・行書の古典のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞)		
7	1 さまざまな行書	34	1	●(1) 知識及び技能 ・用具・用材の特徴と表現効果の関わり、漢字の行書の古典の書風と用筆・運筆との関わりを理解する。(表現「知識」) ・行書の古典の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、中国や日本等の文字と書の伝統と文化について理解する。(鑑賞「知識」) ・行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆や線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。(表現「技能」)	・「漢字の書」における「行書の学習」をまとめて目標を示しているが、各単元の設定においては、「行書の学習①蘭亭序と祭姪稿」「行書②日本の行書の学習」というように、二つの古典を比較したり、各古典の学習を一つの単元として学習計画を作成することも考えられる。
	行書の特徴	35			
	2 王羲之と顔真卿の行書	36~49			
蘭亭序 祭姪稿	別冊11 別冊12	3	●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・行書の古典の特質に基づく幅広い表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) ・行書の古典のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞)	・各古典の学習を一つの単元として設定する場合は、特に「技能」においては、「行書の古典」と示している部分は、「蘭亭序」「祭姪稿」「風信帖」等の具体的な古典名とすることとなる。	
3 日本の行書	51~53				
風信帖	別冊13	3	○生活や社会における書を再認識し、その意義や効用を考え、そのよさや美しさを味わってとらえる。	・「漢字の書」に位置付けられている各単元と関連付けて一体的に扱うことが考えられる。	
9	身のまわりで見られるさまざまな書	56	適宜	○生活や社会における書を再認識し、その意義や効用を考え、そのよさや美しさを味わってとらえる。	・「漢字の書」に位置付けられている各単元と関連付けて一体的に扱うことが考えられる。
	篆書(小篆)の特徴	57	適宜	○篆書の古典の書風と用筆・運筆との関わり、中国の書の伝統と文化について理解する。 ○篆書の古典(泰山刻石)に基づく基本的な用筆・運筆や線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。	・篆書については、生徒の特性等も考慮し扱うようにする。「篆刻の学習」と一体的に扱うことも考えられる。
	泰山刻石	57	適宜	○篆書の古典(泰山刻石)の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ○篆書の古典(泰山刻石)や臨書した作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。	・「書体の変遷」と関連付け、文字が刻されてきたことなど、中国の書の伝統と文化について理解する指導も考えられる。
四	1 篆刻の学習	59	適宜	○篆刻の用具・用材、基本的な表現の過程について理解する。 ○篆刻の古典の書風と用刀・運刀との関わり、中国の書の伝統と文化について理解する。 ○篆刻の基本的な用刀や線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。 ○篆刻の書風に即した用刀・運刀、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ○篆刻作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。	・篆刻、刻字等については、生徒の興味や関心をふまえ、可能な限り扱うようにする。篆刻については、「篆書」の学習とあわせて一つの単元を設定する方法なども考えられる。
	いろいろな印 落款について	60			
姓名印と文字の配列	61	62~63	○刻字の用具・用材、基本的な表現の過程について理解する。 ○刻字の効果的な表現の技能を身につける。		
印稿の例 刻る手順	62~63				
2 刻字の学習	64	64			
篆書 の 学 習	隷書の特徴	65	適宜	○隷書の古典の書風と用筆・運筆との関わり、中国の書の伝統と文化について理解する。 ○隷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆や線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。 ○隷書の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ○隷書の古典や臨書した作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。	・隷書、草書については、生徒の特性等を考慮し扱うようにする。 ・「書体の変遷」と関連付け、文字が刻されてきたことや木や竹等に書かれることで発展してきたことなど、中国の書の伝統と文化について理解する指導も考えられる。
	曹全碑/居延漢簡	65~67			
	草書の特徴	68			
草書 の 学 習	草書の特徴	68	適宜	○草書の古典の書風と用筆・運筆との関わり、中国の書の伝統と文化について理解する。 ○草書の古典に基づく基本的な用筆・運筆や線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。 ○草書の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ○草書の古典や臨書した作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。	
	書譜	69			
	漢字の書の制作	70~75	4	●(1) 知識及び技能 ・用具・用材の特徴と表現効果の関わりについて理解する。(表現「知識」) ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。(鑑賞「知識」) ・古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。(表現「技能」)	・漢字の書の各古典の臨書の学習で身に付けた資質・能力を基礎として、生徒が意図に基づいて主体的に構想し、表現を工夫しながら作品を完成させることで自己表現をし、達成感が味わえるように指導計画を設定したい。
				●(2) 思考力、判断力、表現力等 ・意図に基づいた表現について構想し工夫する。(表現)	

10	漢字の書の鑑賞	78～80	2	<ul style="list-style-type: none"> ・創造された作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。(鑑賞) ●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・自身の表現の意図に基づく表現、漢字の書の特質に基づく表現をする幅広い表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) 	
	書の鑑賞形式	76～77	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞) 	
	身のまわりの書		適宜	○書が生活の中で果たしている役割や書の効用について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。	・中学校国語科書写の第3学年の指導内容「身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと」の学習を発展させる授業を設定したい。
二 仮名の書の学習					
11	1 仮名の世界へようこそ	82～83	2	<ul style="list-style-type: none"> ●(1)知識及び技能 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。(表現「知識」) ・線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。(表現「知識」) ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。(鑑賞「知識」) ・日本の文字と書の伝統と文化について理解する。(鑑賞「知識」) ・仮名の成立等について理解する。(鑑賞「知識」) ・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。(鑑賞「知識」) ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身につける。(技能) ・連続と単体、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につける。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「1 仮名の世界へようこそ」(6時間)を一つの単元として設定することもできる。その場合は、三つの古筆の比較鑑賞を導入して位置づけ、「仮名の成立と発達」から「連続」までが単元で扱う内容となる。 ・「仮名の成立と発達」および「仮名の種類」については、漢字の書と関連づけるなどして、その関連を理解できるような授業が考えられる。
	仮名の成立と発達	84			
	仮名の種類	85	2	<ul style="list-style-type: none"> ●(2)思考力、判断力、表現力等 ・古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。(表現) ・意図に基づいた表現について構想し工夫する。(表現) ・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。(鑑賞) ・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。(鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「仮名の古典の学習」(5時間)を、一つの単元として設定することもできる。その場合、「蓬萊切の鑑賞と臨書」から「三色紙の鑑賞と散らし書き」までが単元で扱う内容となり、生徒の実態に応じて「仮名の古典の学習①蓬萊切」というように、二つ以上の小単元を設定して指導計画を作成することが考えられる。 ・各古典の学習を単元として一つずつ設定する場合は、目標で「古典」と示している部分は、「蓬萊切」等具体的な古典名となる。
	姿勢・執筆	86			
	用具・用材とその扱い方	87	2	<ul style="list-style-type: none"> ●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) ・主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「仮名の創作」(5時間)を、一つの単元として設定することもできる。その場合、「仮名の書の制作」から「大字による表現と鑑賞」までが単元で扱う内容となる。 ・仮名の各古典の学習で身に付けた資質・能力を基礎として、生徒が意図に基づいて主体的に構想し、表現を工夫しながら作品を完成させることで自己実現をし、達成感が味わえるように指導計画を設定したい。
	基本的な筆使い	88～89			
	平仮名	90～91	2	<ul style="list-style-type: none"> ●(2)思考力、判断力、表現力等 ・古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。(表現) ・意図に基づいた表現について構想し工夫する。(表現) ・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。(鑑賞) ・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。(鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「仮名の書制作と関連づけて、一体的に扱うことが考えられる。 ・年賀状などに活用して、生活における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わえるような授業を設定したい。
	変体仮名	92～93			
	2 蓬萊切の鑑賞と臨書	94～95	4	<ul style="list-style-type: none"> ●(1)知識及び技能 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解する。(表現「知識」) ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化について理解する。(鑑賞「知識」) ・目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につける。(表現「技能」) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字仮名交じりの書」は「漢字の書」「仮名の書」のように内容のまとまりの中に複数の単元設定が難しいと考えられる。ここでは、言葉の選定から作品の完成までの一連の「創作活動」を一つの単元として設定している。 ・生徒一人一人が生み出した作品にはかけがえない価値があり、自己や他者が生み出した著作物等に価値があることを理解しそれらを尊重し合う態度を養いたい。必要に応じて書に関する知的財産権にふれたい。(他の単元も同様)
	3 高野切第三種の鑑賞と臨書	96～97 別冊14～16			
4 三色紙の鑑賞と散らし書き	98～99				
5 仮名の書の制作	100～101	5	<ul style="list-style-type: none"> ●(2)思考力、判断力、表現力等 ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫する。(表現) 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国から伝来した漢字を受容し、仮名を生成し、やがて「漢字仮名交じり文」を成立させた歴史と漢字仮名交じりの書の変遷について理解ができる授業を設定したい。 	
6 全体構成の工夫	102				
7 大字による表現と鑑賞	103	1	<ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな用具・用材と、表現との関わりについて理解し、目的に応じた効果的な表現の技能を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校国語科書写との関連を十分に考慮するとともに、高等学校国語科との関連を図るなど、実社会・実生活との関わりをふまえて効果的に文字を書く活動を設定したい。生徒の実態に応じて硬筆も取り上げるよう配慮したい。 	
○料紙の美	104～105	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ○美麗な加工を施した料紙の伝統的な美を味わい、仮名の書的美を幅広く感受する。 ○簡単な料紙制作や、自作の料紙を用いた表現を通して、用具・用材と表現効果との関わりを美感的に理解する。 		
○料紙を作ってみよう	106				
三 漢字仮名交じりの書の学習					
1	1 言葉表現する	108～109	2	<ul style="list-style-type: none"> ●(1)知識及び技能 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解する。(表現「知識」) ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化について理解する。(鑑賞「知識」) ・目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につける。(表現「技能」) 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国から伝来した漢字を受容し、仮名を生成し、やがて「漢字仮名交じり文」を成立させた歴史と漢字仮名交じりの書の変遷について理解ができる授業を設定したい。
	2 感動や思いを表現しよう	110～111			
	作品の表現意図を考える	112	3	<ul style="list-style-type: none"> ●(2)思考力、判断力、表現力等 ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫する。(表現) 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校国語科書写との関連を十分に考慮するとともに、高等学校国語科との関連を図るなど、実社会・実生活との関わりをふまえて効果的に文字を書く活動を設定したい。生徒の実態に応じて硬筆も取り上げるよう配慮したい。
	名筆に学ぶ表現の工夫	113			
	用具・用材の工夫	114～115	4	<ul style="list-style-type: none"> ●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) ・書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国から伝来した漢字を受容し、仮名を生成し、やがて「漢字仮名交じり文」を成立させた歴史と漢字仮名交じりの書の変遷について理解ができる授業を設定したい。
	全体構成の工夫	116～117			
	作品の完成(鑑賞会を行う)	118～119	2	<ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな用具・用材と、表現との関わりについて理解し、目的に応じた効果的な表現の技能を身につける。 	
	3 漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞	120～123	2	<ul style="list-style-type: none"> ●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) ・書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国から伝来した漢字を受容し、仮名を生成し、やがて「漢字仮名交じり文」を成立させた歴史と漢字仮名交じりの書の変遷について理解ができる授業を設定したい。
	漢字仮名交じりの文の成立とその書の変遷			<ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな用具・用材と、表現との関わりについて理解し、目的に応じた効果的な表現の技能を身につける。 	
	2 書式の教室	124～127	2	<ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな用具・用材と、表現との関わりについて理解し、目的に応じた効果的な表現の技能を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校国語科書写との関連を十分に考慮するとともに、高等学校国語科との関連を図るなど、実社会・実生活との関わりをふまえて効果的に文字を書く活動を設定したい。生徒の実態に応じて硬筆も取り上げるよう配慮したい。
○書道史略年表	128～131	適宜			
○博物館や美術館に行ってみよう	132～133				
○日本・中国書道史参考地図	134				
3	○索引	134			

※ここに掲げているのは、一学期24時間(12週)、二学期30時間(15週)、三学期16時間(8週)とした年間70時間の目安です。
 ※「漢字仮名交じりの書」の単元の設定と目標は、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 芸術(書道)」(国立教育政策研究所)から引用しました。